
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2023 年 VOL.3(2023.8)

第74回全国七大学対抗陸上競技大会兼第34回全国七大学対抗女子陸上競技大会
(大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場)

- ・ 対抗男子総合6位、対抗女子総合3位
- ・ 菅田理乃(3)が女子400m、女子800mで二冠
- ・ 島村惟葵(2)が男子棒高跳で優勝
- ・ 伊藤未空(4)が女子走幅跳で優勝

● 第74回全国七大学対抗陸上競技大会兼第34回全国七大学対抗女子陸上競技大会

2~14 ページ

- 自己ベスト更新者一覧
- OBOG 戦のお知らせ
- 今後の予定
- 編集後記

15 ページ

16 ページ

16 ページ

16 ページ

残暑厳しき折、会員の皆様にはますますのご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、7月22日、23日に行われました第74回全国七大学対校陸上競技大会兼第34回全国七大学対校女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

◎第74回全国七大学対校陸上競技大会兼第34回全国七大学対校女子陸上競技大会
～大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場～（7/22～7/23）

7/22～23の2日間にわたり大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場にて七大戦が行われました。対抗戦だけでなくオープン種目も開催され、現役部員はじめ多くのOBの方々にもご参加いただきました。東京の暑さ厳しい中ではありましたが今大会、競技、応援に部員一同奮闘しました。男女総合結果ならびに主将、女子主将の挨拶と対校戦各選手による選手報告を紹介します。

・男子総合結果

順位	大学	得点
1位	大阪大	110
2位	京都大	84.5
3位	名古屋大	71
4位	東京大	53
5位	九州大	45
6位	東北大	43
7位	北海道大	13.5

・女子総合結果

順位	大学	得点
1位	大阪大	28
2位	京都大	21
3位	東北大	18
4位	名古屋大	17
5位	北海道大	8
6位	九州大	6
7位	東京大	2

●主将・女子主将より

主将挨拶

東北大学陸上競技部 前主将 斉藤宥哉

OBOGのみなさまには、日頃より、度重なるご支援、それからご声援を賜り、心より感謝しています。

さて、7月22・23日に、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場にて、七大戦が開催されました。結果としては、男子が総合6位、女子が総合3位と、いずれも部目標には届きませんでした。下馬評では十分得点圏内にいるが、当日は惜しくも上位入賞を逃してしまった選手が少なくなかったように思います。私自身、当日のアップで足を痛めてしまい、最前線で戦うことは叶いませんでした。部目標に届かなかつたのは、これまでの練習で積み重ね、研鑽してきたものを本番でいかんなく発揮する強さを涵養しきれなかったこと、それから、七大戦と同等の比重を置いていた東北ICにおいてチームとして芳しい記録を残し、七大戦までの良い流れをつくれなかったことが要因ではないかと考えております。2023年シーズン前半に好

成績を残すために、幹部陣を中心にあれこれ試行錯誤を繰り返してきた帰結がこうなってしまうと、やはり、冬季から対校戦までに正しい努力を重ねることができていたのかどうか、適切な戦略を立てることができていたのかどうかは、こうして対校戦を終えてはじめてわかるものなのだと思います。正直なところ、任期中のチームとしての戦績は、就任当初に思い描いていたものとはいえないものになってしまい、悔しさが残りますが、任期を終えた私にできることは、この1年間の反省と今後の課題を次の世代に伝えていくこと、新しいチームを上級生として支えること、それから、1年間私を支えてくださった部員のみなさん、顧問の先生方、OBOGの皆さまに感謝し、今後、競技で恩返しすることだと思っています。

新しく主将に就任した西尾陸大は、視野が広く、すでにチーム全体の利益を考えて行動することができる選手です。部員からの信頼も厚く、競技力も申し分ありません。このチームがまだまだ強くなると信じて、私も一部員として、全力で西尾陸大についていく所存です。来年は、さらにパワーアップした東北大学学友会陸上競技部をお見せできると思いますので、今後とも、ご支援・ご声援のほど、よろしく願いいたします。

女子主将挨拶

東北大学陸上競技部 前女子主将 伊藤未空

今年度の七大戦は、女子は1位の大阪大学と10点差、2位の京都大学と3点差の3位となりました。主管を務めた仙台大会で3位に終わってから、「七大戦総合優勝」を第一目標に掲げ、「今年こそは」優勝杯の奪還をという気持ちで臨んでいただけに、悔しさが残ります。一方で、選手の人数が少ない中で、幅広く得点を取ることが出来たという意味では、チームの総合力と層の厚さを実感することの出来た有意義な大会だったように感じています。

今回の結果に関して、特筆すべきは「下級生の活躍」です。チームが獲得した18得点中、14得点は3年生以下の活躍によるもので、下級生がチームの主戦力として戦ってくれました。さらに、各種対校戦や日々の練習の中で、「チームとして戦う意義」や「1人1人に出来ること」を部員一丸となって考えてきました。そんな経験を積んだ彼らには、既に、対校戦で戦うという「自覚」が備わっていることと思います。七大戦が終わった翌日から、新女子主将の原田を中心としてチームは歩みを進めています。来年こそは必ず悲願の総合優勝を成し遂げてくれるものと信じています。

最後になりますが、チームの活動を日々支えてくださっている顧問の先生方、OBOGの皆様には心より感謝申し上げます。皆様のお力添えがあつてこそ、コロナ禍以前の不自由な活動状況を復活させることが出来ました。これからも部員一同、一層の努力を重ねて参りますので、今後ともご支援・ご声援をいただければ幸いです。

●選手報告

☆トラック

男子対抗 100m 予選

1組5着 川手拓朗(3) 11.25(-2.4)

10秒台を出し決勝に進出することを目標としていたが、一次加速のキレが思っていたより出なかったことと強い向かい風のためラスト20mで動きがバラけてしまったことが原因でどちらも達成できなかった。どんな条件下でもラウンドを勝ち抜く強さが足りないことを痛感させられた。

2組5着 笹山一星(4) 11.09(-0.2)

スタートで先行できたが、上体を上げるのが早く、トップスピードが上がらないまま差を広げられ5着でフィニッシュ。

3組6着 元木盛太(3) 11.32(+0.3)

二回目の七大戦。去年は歯が立たなかったという印象であり、今年こそは勝負ができるようにと思いきり冬季を過ごしてきたが、今シーズンは怪我の影響もあり春先から練習を積むことができず、結局昨年と同じような形で終わってしまった。スタートで飛び出て、逃げ切る形でしか勝算がないと思っていたが、スタート直後に隣の京大に出られてしまい、いつもの加速ができず終わってしまった。それでも後半は大きく崩れることなく最低限の走りができただけは悪くなかった。

女子対抗 100m 予選

1組6着 伊藤未空(4) 13.41(-0.3)

スタートの反応は良かったが、すぐに顔が上がってしまい前傾を維持することが出来なかった。中盤から後半にかけては、先行

されてしまったことで力んでしまい、減速が大きくなって6位でフィニッシュ。

2組7着 菊地志乃(2) 13.80 (+0.6)

スタートで出遅れ、他選手に追いつけないまま、そのまま7着でゴール。

男子対抗 200m 予選

1組7着 神近凜太郎(1) 23.07(-1.4)

かなりの暑さに加えてスタートやり直しで集中力を欠いてしまい、スタートから出遅れてしまった。カーブでうまくピッチを上げることができず、スピードに乗れなかった。対抗戦トップバッターで東北大に流れを持って来られずとても悔しかった。

2組3着 室田竜磨(1) 22.48(-1.7)

カーブを上手く走れなかった。直線から上げることができたがタイミングが遅かった。

3組3着 西尾陸大(3) 22.29 (+0.3)

前半100にキレが出ず11.2台の通過。京大高橋に大きく先行され焦りつつ100mからピッチを上げた。後半の動きは及第点だったものの、阪大島谷を捉えることができず3着で予選通過。

男子対抗 200m 決勝

7位 西尾陸大(3) 22.57 (-0.3)

昨日の猛暑による疲労で筋肉が動かず、かなりキレが悪かった。2度とこのようなレースをしないよう精進する。

男子対抗 400m 予選

2組6着 川野輪拓也(3) 51.34

外レーンだったため引っ張られてスピードに乗ることが出来ず、最後まで変わらず6着でフィニッシュ。

3組4着 菅野涼太(2) 49.99

唯一見えていた8レーンを追ったが他大学のスピード感から後れを取った。前半の遅れを取り戻そうと200m~250mでギアを上げたが間に合わず4着でフィニッシュした。

DNS 齊藤宥哉(4)

女子対抗 400m 予選

1組1着 菅田理乃(3) 59.74

ゆっくりスタートをし、300m地点まで2番手につく。その後少しスピードを上げ、前を走る選手を抜かし1着でゴール。

2組3着 加賀谷美結(2) 61.26

最初の入りの200mは他の選手のスピードに圧倒されながらも自分の思い描いたレースを展開する。残り200m地点で前の選手を積極的に追い越す姿勢を見せながら直線に入って追い上げを見せ、3着でゴール。

女子対抗 400m 決勝

1位 菅田理乃(3) 57.47

ゆっくりスタートをする。前半型の選手を見ながら200mまで3番手で展開する。スピードを気持ちあげ、350m地点で1番手になりそのままゴール。

DNS 加賀谷美結(2)

男子対抗 800m 予選

2組2着 渡辺芽(2) 1:56.25

序盤から集団後方につけた。ラスト100mまでは落ち着いて走り、スパートをかけて2位でフィニッシュし決勝進出を決めた。

3組4着 渡邊優典(1) 1:56.30

あと一步のところまで決勝進出を逃してしまい、大変悔いの残る結果となった。自己ベストにも全然届かない記録であったため、来年までに高校の自分に勝ちたい。

DNS 大塚光陽(3)

男子対抗 800m 決勝

7位 渡辺芽(2) 2:02.38

ハイペースなレース展開についていけず、上げきれないまま7位となった。

女子対抗 800m 決勝

1位 菅田理乃(3) 2:19.25

スタートから350mまでゆっくり先頭を走る。その後3人に抜かされるも500m地点からスピードを上げ再び先頭に出る。1着でゴール。

7位 加賀谷美結(2) 2:24.30

入りの400mがいつもよりもかなりスローペースであるため今までとは違ったレース展開となった。残りの300m地点で多くの選手が上げてきている場面で自分がレース展開にうまく対応できず、上げることができなかった。ラストスパートはタイムを狙いに上げていったが、前に追いつくことができず7着でゴール。

男子対抗 1500m 決勝

8位 北嶋僚大(1) 4:02.03

スタートしてからは8番手くらいの位置に着いた。その後はどんどん順位を落として

しまい、1000m 付近では後ろから 4 番手くらい。ラスト 1 周でスパートをかけ少しずつ前の人を抜かしていき、最終的には 8 位でゴールした。

14 位 日引英舜(1) 4:07.54

スタートで集団の後方につき中盤以降で前を一人ずつ捉えていく作戦だったが、ラストスパートがかけられず、むしろたれてしまい 14 着でゴールした。

21 着 大塚光陽(3) 5:00.51

スタートして 500m 地点で捻挫。その後なんとかゴールする。

女子対抗 3000m 決勝

11 位 木村瑞葉(3) 11:10.09

100m までは集団の後方につくもその後だんだんと離されてしまい、11 着でゴールした。

12 着 江口真央(2) 11:29.87

前半は全体の中盤ほどをキープしたが、後半粘ることができずにそのままゴール。

男子対抗 5000m 決勝

12 位 深澤昇悟(3) 15:43.89

2000m までは縦長の先頭集団についていたが、集団が 2 つに分かれたときに第二集団に残ってしまいそこから追いつこうとしたが、先頭からは離される一方で数人の選手と競りながら 12 位でのゴールとなった。来年はしっかり練習を積めた状態で最後まで先頭で粘りたい。

15 位 坂本順(4) 16:00.41

春先の怪我の影響で直前まで練習不足であり、正直上位争いをするのは厳しいと思っていた。しかし、無難なレースをしても仕

方ないなと思い(昨年はそのようなレースをして何とも言えない気持ちになった)、序盤から積極的なレースをしようという思いで挑んだ。案の定苦しくなってから粘ることができず、思うような結果は得られなかった。結果は残念なものになったが、最後の七大戦を自分なりに楽しめたと思う。この悔しさを駅伝に繋げ、清々しく引退したい。

21 位 照内優允(1) 16:44.72

練習と大会での疲れと東京での暑い中での試合で調子を上げることができず、後半熱中症気味で良いレースができなかった。タイムも順位も本当に悔しい。北大戦での失敗があって、今度こそと思っていた中でこのようなレースになってしまい、応援して下さった皆様には本当に申し訳なく思う。来年はもっと強くなってリベンジしたい。

男子対抗 110mH 予選

2 組 5 着 大山幹生(1) 19.06(-1.5)

スムーズにスタートできたが、三台目で抜き足が引っかけり以降減速し、5 着でゴール。

3 組 2 着 西里碧澄(2) 15.41(-2.8)

アップがあまりできなかったため、ぶっつけ本番で臨んだ。前日の OP100 で自己ベストを出しており調子が良かったので、スタートから突っ込む意識をした。向かい風が強かったため想定していたタイムよりは遅かったが、着順で決勝に進むことができたので良かった。

DNS 根本大輝(4)

男子対抗 110mH 決勝

5位 西里碧澄(2) 15.10(+1.3)

2日合わせて3本目のレースとなり、疲労がピークに達していた。アップの時から体が重くとも不安だったが、アドレナリンでなんとか持ち堪えた。自己ベストで5着だったため、来年はさらに良い順位を取れるように自分を高めていきたい。

女子対抗 100mH 決勝

9位 西條絵莉香(4) 18.93(+0.7)

1台目までは大きな遅れをとることなく通過、その後前の走者との差が開いたり7台目で若干踏み切りが上手くいかなかったりしたが、ペースを乱さずに安定した走りをする事ができた。

男子対抗 400mH 予選

1組4着 金岡有途(2) 59.96

不甲斐ないレースだった。もっと精進して、来年は得点に絡んでいきたい。

2組3着 阿部竜胆(2) 54.40

転ばなければ決勝に行けると思っていたので安全レースをした。思ったよりも1個外のレーンの九州大が速く、焦ったが落ちて着いてレースを進めて3着。

3組2着 55.07 池谷駿(3)

走っている途中に決勝に行けないかもしれないと焦った。運良く決勝に残ることができたが、ただただ不甲斐ない走りだった。

男子対抗 400mH 決勝

5位 阿部竜胆(2) 54.20

予選で温存したので決勝で逆転を狙ったが、練習してきた前半スピードを乗せたまま後半で切り替えるということが出来ず惰性でゴールしてしまった。また1から作り直して来年リベンジ。

8位 池谷駿(3) 57.94

様々な要因が重なって全く良いところのない走りになってしまった。優勝を目指して1年間練習してきたので非常に悔いが残った。来年は優勝する。

3000mSC 決勝

5位 杉山大輔(2) 9:43.71

1600m付近までは5位の選手について行き、その後前の選手のペースが少し落ちたため前に出て単独で4位の選手を追っていた。最後スパートをかけたが、追いつけずにそのまま5位でゴール。ほぼ全ての障害を詰まることなく加速しながら越えられ、PBを22秒更新することができた。

8位 鳥山拓実(3) 10:00.51

昨年は8位とで得点まであと少しのラインでゴールしてしまったため、今年は得点ラインでレースを進めるよう意識した。スタート後しばらくは6位ラインでレースを進めていたが、その後どんどんと抜かされてしまい、8位でのゴールとなった。タイムを見ると私のペースが落ちていた。やはり後半に粘る力がないと痛感した。

12位 小林由輝(3) 10:09.79

下馬評で入賞ラインから持ちタイムが遠かったため、序盤から攻めた走りをした。1000m通過までは7位に着き、入賞ラインが見えていたが、徐々に足が動かなくな

り順位を落とした。そのまま切り替えることができずにゴール。

男子対抗 5000mW 決勝

8位 田中伊織(2) 23:02.63

先頭には付かず7位集団でレースを進めた。3000過ぎで仕掛けて6位を追うも、差が縮まらず8位でゴール。PBを48秒更新した。

DNS 山中遼平(1)

男子対抗 4×100m リレー決勝

7位 42.11

元木(3)―西尾(3)―笹山(4)―川手(3)

1-2走のバトンパスでかけ声が聞こえずバトンミス。隣レーンの京大と声が被ったこと、集団応援が近かったことが原因と考えられる。3、4走では他大学と離されはしなかったがその差を埋めることができず7位でフィニッシュした。

女子対抗 4×100m リレー決勝

6位 53.04

加賀谷(2)-伊藤(4)-西條(4)-菊地(2)

4レーンからスタート。

1走加賀谷は、内側の京都・九州大学に追われながらも、終盤まで安定した走りで2走伊藤へやや詰まりながらバトンパス。

2走伊藤は、1走とのバトンパス時にやや減速するも、その後持ち直し、大きなストライドで多大学に食らい付き6位でバトンパス。

3走西條は、序盤から一気に加速し、カーブを減速することなく安定したピッチで駆け抜け、6位でバトンパス。

4走菊地は、バトンパスの勢いのまま一気に加速し、抜群のストライドで前方の北海道大学を懸命に追い、6位でフィニッシュ。

男子対抗 4×400m リレー決勝

3位 3:16.74

菅野(2)―西尾(3)―阿部(2)―川野輪(3)

1走は菅野。400m 専門らしい安定した走りで2位でバトンパス。2走は西尾。前半で1位に踊り出るも、後続の追い上げが激しく、4位でバトンパス。3走は阿部。個人種目の疲労を感じさせない堂々とした走り。3位でバトンパス。4走は川野輪。1度順位を4位に落とすが、スパートで3位に戻りフィニッシュ。

☆フィールド

男子対抗 走高跳 決勝

5位 嶋崎雄飛(4) 1m90

なぜ跳べなかったのか分からない。もう何も考えたくない。完全に自信喪失した。

9位 平山朝陽(3) 1m85

去年から着手している助走の改良がうまくいかなかった。自信のない中での試合となり結果として自身の大学で出した記録の中で最も低い記録タイとなってしまい、得点も稼ぐことができず本当に申し訳ないと思っている。しかしこの一年間自分としては最善を尽くしてきた自信があり、彦坂教授とOBの山下さんのアドバイスや今回の大会でトップレベルの選手の助走を生で見ることができたことでかなり助走が完成してきた。来年の七大戦では集大成として完成

した跳躍で優勝するところを皆さんにお見せするのでぜひ応援していただきたい。

11位 柴田駿吾(1) 1m80

暖かい環境下での試合で体は動いたが、怪我をしてしまい、無念の途中棄権という形で終わってしまった。

女子対抗 走高跳 決勝

4位 原田萌々子(3) 1m55

今シーズンは調子が悪かったが、大会前週の練習で良い跳躍が多かったことから自信を持って臨めた。試合は1m45からスタート。1m45、1m50、1m55と1回で成功。1m60は本数を重ねるごとに良くなりはしたがクリアできず、結果1m55で4位だった。順位は満足できるものではなく悔しかったが、今回の記録はSBであったことから最善は尽くしたと思う。来年の七大戦までに力をつけて、次こそは優勝したい。

男子対抗 棒高跳 決勝

1位 島村惟葵(2) 4m60

スタートリスト通り1位を取れる立ち位置であったので、他の選手の様子も見ながら、4m30を一本目で跳び優勝を確定。次に自己ベストタイとなる4m60を一本目で跳ぶも、4m80では集中力に欠け成功とはならなかった。恵まれた環境で棒高跳をできているのは支えてくださっているみなさまのお陰なので、これからも結果という形で務めを果たしたい。

3位 根本大輝(4) 4m00

3m40からスタートした。3m40は1回でクリアしたが、3m60で思うようにポールを操作できず3回目でクリアした。その

後は4m00まで1回でクリアし3位で競技を終了した。

7位 吉田悠人(3) 3m20

記録を残すために3mからスタート。PBである3m20も余裕でクリア。しかしながら足が攣りかけてしまい3m40で3回失敗してしまっただけで3m60を最低目標としていたため悔しい結果となってしまった。PB更新こそしたものの目標は達成出来なかったので今年中に4m、来年までに4m20跳び今度こそ記録更新したい。

男子対抗 走幅跳 決勝

8位 根本大輝(4) 6m56(+0.8)

第2跳躍で6m56を記録し決勝へ。多種目出場もあり、決勝跳躍では記録を伸ばせず、全体8位のまま競技を終了した。

15位 常陸悠成(2) 6m06(-0.3)

公式練習の時から向かい風が強くなったりと、弱くなったりと難しい条件下で1本目2本目ファールと上手く対応することができなかった。3本目を含めた跳躍に関しては試合前取り組んできた前のめりで踏み切ることができておらず納得のいく結果を得られなかった。また一から跳躍や走りを改善していきたい。

NM 坂元泰(3)

資格記録の時点ではベスト8からはかなり遠く、攻めの跳躍をした結果3回ともファールという不甲斐ない記録で終わってしまった。ただ、跳躍自体はPB相当の動きはできており、助走を合わせる技術の確立が必要だと痛感した。また、今回の七大戦ではかなり風が向かっていて、それに対応することができなかった。

女子対抗 走幅跳 決勝

1位 伊藤未空(4) 5m27(-1.6)

F - 5m03 (-0.3) - F - 5m25 (-0.9) - 5m27 (-1.6) - 5m21 (1.0)

1本目から3本目にかけては、風に翻弄される展開だった。1.3本目はフェールだったものの5m40近く飛距離が出ていたため調子は良かった。2本目に余裕を持って跳躍をし、20cmほど手前だったものの、まずは記録を残す。そして、3本目時点で2位で試合を折り返す。

後半3本は、助走をしっかりと調整出来たこともあり、自己ベスト付近の記録が連発した。4本目は攻めの助走をしたものの、最後の一步で間延びしてしまい、リズムが少し崩れてしまった。しかし、5m25で自己ベストを更新し1位に浮上した。5本目は4本目の反省を生かし、踏切前のリズムアップを意識した。その結果、5m27で再度自己ベストを更新することが出来た。5本目にある程度の記録を残せていたため、6本目は思い切って助走をすることが出来た。スピード・踏切前のアプローチ共に6本の中で最も良かったが、やや前傾で踏み切ってしまったことにより、空中でバランスを崩してしまった。しかし、記録的には良かったため、次回以降に良いイメージを残す跳躍となった。

今回の試合は、風の変動がひどく序盤は助走合わせに苦戦したが、後半には調整することが出来た。また、試合後半にかけて記録を伸ばすことの出来た試合は、過去ほとんど無かったため、成長を感じられる内容だったと思う。目標としていた1位を取

ることが出来て純粋に嬉しい。以降の試合にもこの勢いのまま臨み、部記録を更新して卒業したい。

男子対抗 三段跳 決勝

7位 大谷航平(4) 14m26(+0.2)

14m26(+0.2)-F-14m16(+0.3)-14m07(+0.2)-F-F

第一跳躍でSBの14m26を記録。今シーズンは不調続きでなかなか思うような跳躍ができていなかったため、とりあえず一安心。ただし、他大学の選手が想定よりも強く、3本を終えた時点で5位。4本目以降は記録を大きく伸ばすため「ホップを大きく跳んで攻める」跳躍を意識した。しかし、結果的には6本目しか上手く跳べず、その跳躍もフェールとなり7位で終了。悔しさの残る結果となった。良かった点としては不調を脱せた点と、ようやくやりたい跳躍が形になってきた点である。今シーズンは残り2試合程度を想定しているが、そこでPB及び部記録の更新を目指す。

8位 久保田大聖(3) 14m00(+0.6)

1: 14m00

助走でスムーズに加速してホップに入った。ホップの後にスイング足が後ろに流れたことでステップ接地時に前傾した。ただ、スイングが遅れなかったので大きくは崩れず、離地後は上体を立てられて、大きく崩れずジャンプから着地まで持って行けた。自身初の14m台

2: F

1本目より攻めた結果、ステップでやや潰れた。5センチフェールで実測は13m90程。

3: F

これが1番良かった。ホップステップジャンプ全部揃った感じがした。数センチファールで14m10くらい。

4、5: 着地まで持って行けなかった。踏切が遠く感じ、実際板を踏めなかった。疲れてストライドが小さくなっていたのが原因と思われる。

6: 13m78

4、5本目の感じと手拍子パワーを考慮して助走を5センチ短くした。これがハマって踏切ピッタリだった。ステップがかなり1番跳ねたが、少し減速して、また、ステップで想像以上に跳ねたことに対応出来ずジャンプは潰れた。

11位 藤田想(3) 13m44 (-0.4)

春先から出ていた左踝付近の痛みを数日前の練習で悪化させ、かなり不安な状態で試合に臨んだ。

1本目は力んだせいかステップでバランスを崩して前傾し、ジャンプは痛みのせいで力を逃して跳んだので、かなり低空飛行な跳躍になってしまった。この跳躍がこの日のベストの13m44だった。

2本目は、ステップ・ジャンプで力を入れるタイミングがずれ、すっぽ抜けた跳躍になり、記録は13m09にとどまった。

3本目は1本目と同様にバランスを崩し、思ったような跳躍にならなかった。記録も13m33に終わった。今回の試合では、怪我を抱えて跳躍をしても、良い跳躍ができるはずがないということを学んだ。強引な動きをすることで怪我を悪化させていると思われるので、跳躍を根本的に見直し、思

い通りの動きができるようになってから来年この試合に戻って来ようと思う。

男子対抗 砲丸投 決勝

2位 根本大輝(4) 11m50

第1投擲はバランスを崩し10m手前に落ちた。第2投擲以降は自己ベストの10m30を超える11m台を記録し、全体2位で決勝へ。第4試技に11m50のベストを大きく上回る記録を残し2位で競技を終了した。

5位 小出寿啓(4) 10m36

練習投擲から最後まで上半身と下半身の動きが噛み合わなかった。最後まで修正できず、目標であった表彰台にも届かなかった。

10位 川内蒼馬(3) 9m49

練習不足。来年頑張る。

女子対抗 砲丸投 決勝

2位 平谷めるも(2) 10m28

6投目しか10mを投げることができなかった。全体的にパワーと瞬発力が足りない投げだったので、ここから練習を積んで、来年はもっといい投げをしたい。

男子対抗 円盤投 決勝

5位 根本大輝(4) 31m32

他の競技と時間が重なり、練習投擲をしない中での試技となった。第1投擲でベスト8に残り、決勝投擲では記録は伸ばしながらも順位を上げることができず全体5位で競技を終了した。

9位 小出寿啓(4) 28m57

普段の形を作ることができず、軸がぶれてしまった。最も大きな原因としては、当日の練習投擲が少なかったことが挙げられる。これについては今後どの大会でも同じであり、何かしら対策を講じる必要がある。

10位 小椋稜太(1) 27m43

かなり悔いの残る結果になってしまった。ターンの流れが止まる投げが続き、うまく投げることができなかった。今後の課題が浮き彫りになった試合だった。

男子対抗 ハンマー投 決勝

3位 富家彬就(3) 32m69

第一投擲で30mオーバーを綺麗に決めたにも関わらず、気持ちよくなってしまい、サークルの前から出て失格になってしまった。このせいでペースが崩れてしまったと思う。練習で37m近く投げただけに、この記録で終わってしまったことがとても残念だ。入賞できた嬉しさもある反面、悔しさも残るデビュー戦だった。

5位 川内蒼馬(3) 29m08

試合全体のレベルが高くなかったため、一投目からトップ8に残れる記録を出すことができた。二投目以降は力が入ってしまい、失投が多く順位は6位だったが、六投目で修正が間に合って記録を伸ばし、順位を一つ上げることができた。応援が聞こえてきたのが嬉しかった。

7位 金岡有途(2) 23m76

PB更新はできたが、目標としていた得点を取るということはできなかったのが悔しい。実力の差を感じたので来年までに鍛えたい。

男子対抗 やり投 決勝

3位 増田併介(1) 58m30

パワーが足りていないので筋トレをしたい。

5位 川内蒼馬(3) 52m83

一投目は槍が右に抜けてファールしまった。二投目は絶対にファールしないよう丁寧に投げることを意識して出力は出さなかったが、槍にきれいに力が加わったので案外距離も出た。二投目でトップ8に残れる記録を出したので、三投目からは出力を上げ、全体の動きを素早くすることを意識して記録を狙いに行った。三投目、四投目と記録を順当に伸ばしていったが、目標にしてた50後半には届かなかった。五投目、六投目は共に失投だった。

NM 小出寿啓(4)

1投目は思ったよりもストライドが出てしまい、線を越えてしまう。2.3投目は砲丸投と円盤投の疲労もあってか、指先に力が入り切らない上、身体が流れてしまってやりが右に逸れてしまって3回ともファールしてしまった。1投目も、身体が動かない中で無理に大きく動こうとしてファールしたと思う。脱力するところと力を込めるところを今一度見直したい。

女子対抗 やり投 決勝

3位 平谷めるも(2) 29m75

6投目でロングを出し、順位を上げて表彰台に登ることができた。槍投げ専門の方からのアドバイスを生かして、修正できた点がよかった。



集合写真

男子得点

順位	学校名	総合得点	男子対校 100m	男子対校 200m	男子対校 400m	男子対校 800m	男子対校 1500m	男子対校 5000m	男子対校 110mH	男子対校 400mH	男子対校 3000mSC	男子対校 5000mW	男子対校 4x100m	男子対校 4x400m	男子対校 走高跳	男子対校 棒高跳	男子対校 走幅跳	男子対校 三段跳	男子対校 砲丸投	男子対校 円盤投	男子対校 ハンマー投	男子対校 やり投
1	大阪大	110	7	11	12	2		2	11	7		7	5	6					5	3		6
2	京都大	84.5	11	9	3	8				7		12	6		10.5		7	7		1	3	
3	名古屋大	71	1				1	5	4		10	2	4	2	5		9		6	11	11	
4	東京大	53	2	1	1	6	12	11	4		9		1	3					3			
5	九州大	45			5	5	8	3		5			3	5				3		4	1	3
6	東北大	43							2	2	2				4	2	10		7	2	6	6
7	北海道大	13.5											2	1	3.5	1						6

女子得点

順位	学校名	総合得点	女子対校 100m	女子対校 400m	女子対校 800m	女子対校 3000m	女子対校 100mH	女子対校 4x100m	女子対校 走高跳	女子対校 走幅跳	女子対校 砲丸投	女子対校 やり投
1	大阪大	28	4	1	0	6		4	6	3	3	1
2	京都大	21	2	0	2	1	3	2	0		4	7
3	東北大	18		4	4			0	1	4	3	2
4	名古屋大	17	4		1	0	5	3	3	1	0	0
5	北海道大	8		3	0	3	2	0				0
6	九州大	6			3	0		1	0	2		
7	東京大	2		2						0		

◎自己ベスト更新者一覧(7/10~7/23)

男子 800m

大塚光陽(3) 1:51.34 愛知県選手権(7/15)

北嶋僚大(1) 1:57.18 宮城県選手権(7/10)

女子 800m

菅田理乃(3) 2:12.36 宮城県選手権(7/10)

男子 1500m

北嶋僚大(1) 4:02.03 七大戦(7/22)

男子 110mH

西里碧澄(2) 15.10(+1.3) 七大戦(7/23)

男子 400mH

二ノ神遼(6) 53.70 宮城県選手権(7/10)

男子 3000SC

杉山大輔(2) 9:43.71 七大戦(7/23)

男子 5000mW

田中伊織(2) 23:02.63 七大戦(7/23)

男子棒高跳

倉部彰土(2) 3m40 七大戦(7/22)

女子走幅跳

伊藤未空(4) 5m27(-1.6) 七大戦(7/23)

男子三段跳

久保田大聖(3) 14m00(+0.6) 七大戦(7/22)

◎OBOG戦の開催のお知らせ

今年もOB・OG戦を開催したく存じます。多くのOB・OGの皆様のご参加をお待ちしております。

日付：10月22日(土)

場所：評定河原グラウンド

開催種目、申込方法、申込期間、連絡先は別途案内申し上げます。

◎今後の予定

- ・9月14~17日 天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会（熊谷スポーツ文化公園陸上競技場）
- ・9月22~24日 第36回国公立27大学対校陸上競技大会（上尾運動公園陸上競技場）
- ・9月24日 秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会 兼 第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会（名取市サイクリングスポーツセンター）
- ・10月22日 OB・OG対現役部員対抗陸上競技大会（東北大学評定河原グラウンド）
- ・10月29日 第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会（仙台市）
- ・11月5日 秩父宮賜杯第54回全日本大学駅伝対校選手権大会（愛知県名古屋市～三重県伊勢市）

◎編集後記

今号からOBOG通信担当になりました、大村将伸と申します。不慣れなところもあるとは思いますが、OB・OGの皆様にも東北大学陸上競技部の活躍を余すことなく伝えていきたいと思っております。1年間よろしくお願ひします。七大戦では部員全員が競技、応援、サポートに取り組みましたが、結果として男子総合6位、女子総合3位と悔しさの残る結果となりました。この悔しさをふまえ、今後は主将・西尾陸大、女子主将・原田萌々子の新体制もと、全日・全女子選会、国公立27大戦といった各種大会に向けて練習に励んでいます。新体制で戦っていく東北大学の選手たちの活躍にご期待ください。

文責 OBOG 通信担当 大村将伸

編集補助 牧野雅紘、酒井健

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp